

県北

大館支社
 018649-3204
 018649-2311

018649-3204
 018649-2311
 鹿角

能代高2年生 地域課題を探究

商店街、景観に統一感を

市街地活性化策を提言

能代高校の2年生9人が、市内の自治会や商店街関係者らに向け、まちづくりをテーマに取り組んできた探究活動の成果を発表した。高校生自練で気付いた地域課題を挙

げ、持続可能なまちづくりを実現するための方策を提言した。

探究活動は授業の一環。同校では2年生の約半数が、国連が提唱するSDGs(持続



中心市街地の活性化策を発表した能代高校の生徒。自治会や商店街の関係者らにオンラインで配信した

可能な開発目標)に関するテーマを設定し、調べ学習を行ってきた。SDGsが掲げる17の目標のうち「住み続けられるまちづくりを」などの達成に向けたテーマで学習に取り組んできた生徒たちが、11日に成果を披露した。

発表の様子は同校の教室からウェブ会議システム「Zoom(ズーム)」で生配信。自治会長や市役所職員、秋田公立美術大学の教授ら約15人が画面越しに耳を傾けた。

「街の景観」に焦点を当てた生徒は、人通りの減少と空き店舗の増加が、中心市街地に殺風景な印象を与えていると指摘。解決には、空き店舗の活用を検討する起業家への開業支援のほか、景観向上のため公共空間へベンチやテーブルを設置することが有効と主張した。

こうした取り組みで「かわいを生み出した上で」、「かつて『木都・能代』として栄えた歴史も踏まえ、木をコンセプトとした統一感ある商店街をつくれればよいのではないか」と提言した。

発表後の講師では、視聴者から「若いうちからまちづくりに関心を持つことはとてもいいんだ」といった声が出た。

このほか、商店街への無料駐車場の設置や、若者を引きつける店舗を増やすことを提言した生徒もいた。

(佐々木優)

行政に若者の声を

能代高「SDGs未来都市」提言 2年生

導 市 加

国連が提唱する「SDGs（持続可能な開発目標）」の観点から土里・能代市の在り方を考えてきた能代高の2年生がこのほど、市役所を訪れ、斉藤市長に「市SDGs未来都市構想」を提言した。全市を挙げた「フードロス削減」や「ゼロカーボンシティの実現」、島町など中心市街地の活性化などを盛り込んでおり、生徒らは「私たち高校生の意見を市の行政に生かしてほしい」と願いを込めた。

地域課題についてさまざま
まな視点・分野から解決策を提言する「探究活動」に

取り組み2年生は今年度、約90人がSDGsの観点から同市の課題などを調べてきた。成果は校内での発表会のほか、島町など中心市街地の自治会関係者らとオンラインでのシンポジウムで発表・共有したが、行政当局に高校生の考えを理解してもらおうと、施策に反映してもらおうと斉藤市長へのプレゼンテーションを企画した。

この日は同校の学生団体「SDGs Action」のメンバー7人が市役所を訪問し、食農や教育など各分野で市が導入・推進すべき施策を提言。SDGsの目標の一つ「飢餓をゼロに」の観点から「地産地消市の展開、フードロス削減」の公認、「目標」質の高い教育をみんなに」に関連して「ESD（持続可能な開発のための教育）」を市内全ての学校で実施」を要望した。

また、市議会議員の女性の割合が少ないことを踏まえ、目標「ジェンダー平等を実現しよう」達成のため、「ジェンダー差別撤廃のためのアファーマティブ・アクション（積極的格差是正措置）」としてのクオータ制

3/26 北羽

導入」なども挙げた。各グループの提言を総括し、池田翔良君は「未来都市構想戦略会議を立ち上げた上で、高校生の代表を参加させ、若者の意見を市の

行政にすくい上げてほしい。若者の地元離れを防ぐためには斬新な発想も必要。未来を担う高校生が地方行政に意見を発信する機会を設けてほしい」と要



SDGsの観点から能代市のあるべき姿を提言した能代高生(能代市役所で)

願した。斉藤市長は「今や18歳から有権者となる時代で、高校生が地域や行政、国に対して関心を持って取り組むことは大事」と評価し、「皆さんの提案してくれたことや感じたことに対して、しっかり応えることが市役所としての責務だと思う。少しでも高校生がまちづくりや地域づくりに参加できる場を設ける努力をしていきたい」と述べた。

能代の全日制と
定時制で13人合格

高校入試2次募集

4年度県公立高校入試2次募集の合格発表が25日、各校で行われ、能代市内では能代の全日制(普通・理数科)と定時制(普通科)を

「SDGs宣言」を提案

能代高 2年生 中心市街地活性化策探る

能代高(山田浩充校長)で11日、SDGs(持続可能な開発目標)の視点から能代市の中心市街地活性化をテーマに調査・研究に取り組んできた2年生と地域住民らが参加するシンポジウムが行われた。生徒らが発表した研究成果に基づき、地域住民らが地域の現状や課題、今後の動向などを紹介し、持続可能なまちづくりの在り方について意見を交わした。

中心市街地の関係者や市役所職員、大学教員らと共有するとともに、今後のまちづくりの在り方について意見を交わそうと初めて企画。2年生9人のほか、市自治会連合協議会や島町、柳町、能代駅前各商店街関係者、市役所職員ら10人余りが参加。新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン会議システム「Zoom(ズーム)」を活用して実施した。

市民の島町への意識調査とその分析を通じた地域振興策の提言」と題してプレゼンテーションした原田都輝君は、平成29年から30年にかけて島町商店街の空き店舗率が急激に増え、市の今年度調査では40%を超えていると現状を報告。空き店舗を減らし、働き手や交流人口を増やすために▽空き店舗を直売所などとして再利用▽中心市街地に無料駐車場を設ける▽空き店舗の活用希望者を全国で募集▽市の中心市街地活性化のための支援事業拡充——を提案した。

特に駐車場問題について

は「市役所や柳町の有料駐車場を使う現状を考えると、中心市街地での買い物やイベントに参加する地域住民にとって利便性は高くない。市が補助金を出さな

として駐車場を造るべき」として。商店街関係者からは「町の商店は築60年以上たつが柱や壁を隣と共用していることもあり、建て替えが

難しい。空き店舗が住宅を兼ねているため、容易に貸し出すこともできない」「近年ではワーケーションを求める若い世代が増えている。若者の県外流出を減らし、移住・定住が進むような政策も大事」など盛んに意見が出された。



また、生徒たちは▽特産品を生かした「地産地消市」の開催▽市内すべての学校でESD(持続可能な開発のための教育)の実施▽空き店舗をリノベーションし、新しい住居や若者が集まる商店街づくり——などを盛り込む「能代市SDGs未来都市宣言」を提案。すべての世代が暮らしやすい魅力あふれるまちづくりの推進を呼び掛けた。

中心市街地活性化に向けて意見を交わしたシンポジウム(能代高)

能代高生 1年間の活動の集大成

まちづくりにSDGsを

3/31
ヤンキーがイ



能代市の能代高校の2年生が、授業で学んだSDGs(持続可能な開発目標)の観念を市のまちづくりに取り入れてもらおうと、具体的な方策を盛り込んだ「SDGs未来都市構想」を斉藤滋宣市長や市幹部らに提案した。

市に「未来都市構想」提案

能代高では2021年度、2年生190人のうち90人が進路学習の一環で、SDGsが掲げる目標を達成することにより地域課題を解決しようと、調査や研究を進めてきた。学んだ成果を実際の活動につなげる取り組みも進め、生徒有志がフードバンクを支援するため食品を集めたり、子ども食堂でボランティア活動を行ったりしている。

未来都市構想は、地元への地域貢献のため、1年間の活動の集大成としてまとめた。今月18日には生徒代表の7人が市役所を訪れ、斉藤市長らを前にプレゼンテーションを行った。

「飢餓をゼロに」の目標達成を目指す班は、市全体で地産地消の推進やフードロスの削減、食の格差是正に取り組みが必要であるとして、「フー

能代市幹部らに「SDGs未来都市構想」を提案する能代高校の2年生

ドロスゼロ宣言店や地産地消協力店などを市が認証する」「フードバンク活動を市役所や学校など公共施設に拡大する」などを提案した。

「気候変動に具体的な対策を」の目標達成を目指す班は、二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、再造林事業や再生可能エネルギーへの転換を推進することなどを提案した。

このほか、空き店舗のリノベーションによる市街地活性化や、男性の育休取得率向上によるシエンター平等なども構想に盛り込んだ。

最後に生徒を代表して池田翔良さんが「前向きに検討いただければ、未来都市構想戦略会議を立ち上げ、高校生代表を参加させてもらいたい。若者の地域貢献や住民自治の意識向上のため、行政に意見を発信できる機会を設けていただきたい」などと要望した。

斉藤市長は「大変参考になるお話をたくさんいただいた。皆さんの提案に対し市役所として応えていく責務がある。また皆さんと対話できる場を設けたい」と応じた。

(斎藤将典)